

○中干し後の適正な水管理で根の発達を促進しましょう！

○出穂前からのカメムシ対策で「斑点米」の発生を防止しましょう！

1 生育概況

【コシヒカリ】

平年に比べて、草丈はやや短く、茎数は少なく、葉色はやや淡く、葉齢の展開は0.8葉遅れています。

【てんたかく】

平年に比べて、草丈は並み、茎数は並み、葉色は並み、葉齢は並みとなっています。
5/3 田植えの幼穂形成期は6/25頃と予測されます。

【てんこもり】

平年に比べて、草丈は並み、茎数はやや少なく、葉色は淡く、葉齢の展開は0.6葉遅れています。

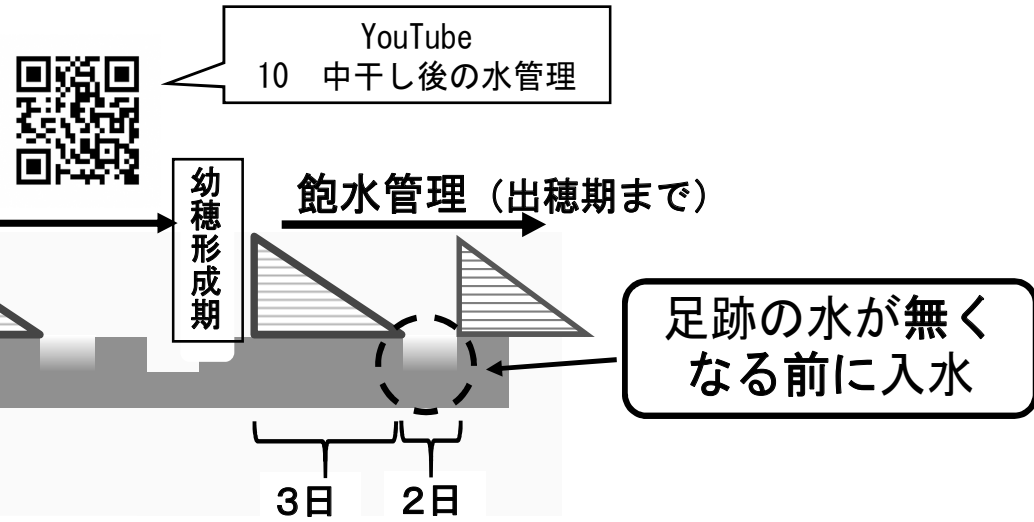
表 水稻の生育状況（6/2 調査 アルプス米標準田 コシヒカリ 11 か所、てんたかく 3 か所、てんこもり 2 か所の平均値）

品種		田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	群落 葉色	幼穂 形成期
				本/株	本/㎡			
コシヒカリ	R7	5/13	26.9	8.4	173	5.9	3.9	-
	R6	5/12	26.1	6.4	135	5.8	4.1	7/10
	平年※1	5/12	29.2	9.8	205	6.4	4.1	7/10
てんたかく	R7	5/3	29.6	15.0	305	7.5	4.3	6/25
	R6	5/3	24.3	11.1	242	7.3	4.3	6/25
	平年※2	5/5	28.7	13.8	294	7.5	4.5	6/26
てんこもり	R7	5/9	25.2	11.4	235	6.8	4.2	-
	県平年※3	5/8	25.4	13.8	260	7.4	4.4	7/12

※1 アルプス米標準田 15 か所における H27～R6 の平均値
※2 H27～R2 まで県生育観測ほ2 か所、R3 は管内調査ほ4 か所、R4～R6 は3 か所の平均値
※3 H27～R6 まで県全域の生育観測ほの平均値

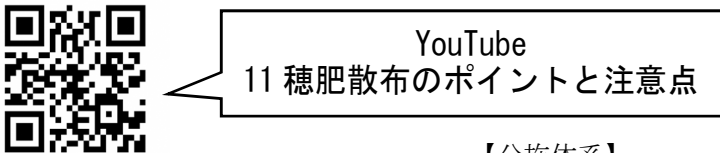
2 中干し後の水管理

参照ページ：p38



- てんたかくは6/25頃まで、コシヒカリは7/10頃まで間断かん水を行い、うわ根を伸ばすとともに、
足跡の深さが3cm程度になるようにしっかりと地固めしましょう。
- 幼穂形成期以降は飽水管理とし、強い田干しは避けましょう。
- ※飽水管理は、「圃場に入水」→「自然減水」→「足跡の水が無くなる前に入水」を繰り返す水管理です。
- ※4日以上湛水状態が続く圃場では強制落水しましょう。
- 出穂後20日間は湛水管理を行いましょう。

3 てんたかくの管理



(1) 穂肥

- 分施肥系の1回目穂肥は、幼穂形成期頃に直ちに施用しましょう。
- 基肥一発肥料を施用した圃場については、倒伏を防ぐため、原則、追加穂肥は行わないてください。
- ただし、幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、幼穂形成期頃に追加穂肥を行ってください。
- 移植日や標高により施用時期が前後するので、幼穂長を確認し施用しましょう。

【分施肥系】		(10a 当たり)	
肥料名	1 回目	2 回目	
追肥 3 号	6/25頃	1 回目の 7～10日後	
	10kg	砂壤土	砂壤土以外
		13kg	10～12kg

※5/3 田植えの場合

【基肥一発体系】		(10a 当たり)
肥料名	6/25頃	
追肥 3 号	7kg	

※幼穂形成期前に葉色が 4.0 を下回る場合のみ



幼穂長：1～2mm

(2) 出穂期防除（5/3田植え、出穂期予想7/14～16）

参照ページ：p40

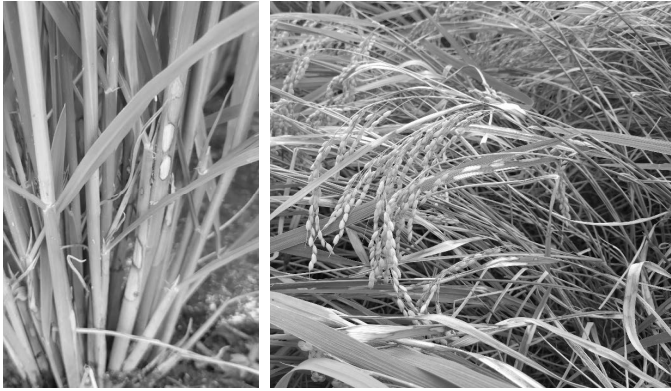
- 出穂の状況を必ず確認して、穂が5割見られる時期に遅れず、適期に防除を行いましょう。

出穂期防除（てんたかく必須防除）			
	粉剤体系	液剤体系（通常散布）	液剤体系（空中散布）
薬剤	ビームモンカット スタークルF粉剤5DL	モンカットフロアブル ＋スタークル液剤10	モンカットフロアブル ＋スタークル液剤10
使用量	3～4kg/10a	150L/10a、1,000倍	0.8L/10a、8倍

4 紋枯病対策

○昨年、紋枯病が多発したほ場では、出穂前に防除を行いましょう。

	粉剤体系	液剤体系（通常散布）	液剤体系（空中散布）
薬剤	バリダシン粉剤DL	バリダシン液剤5	バリダシンエアー
使用量	3～4kg/10a	150L/10a、1,000倍	0.8L/10a、8倍
防除時期	コシヒカリ・富富富：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃		



5 斑点米カメムシ類の防除対策

～早生の格下げの主要因は、カメムシによる斑点米！！～

草刈り運動期間：6月27日～7月6日
＜一斉草刈り日：6月28日（土）～29日（日）＞

○カメムシによる斑点米被害を防ぐためには、畦畔等の草刈りと基本防除が不可欠です。また、圃場内にノビエやホタルイが残っていると被害を助長するので、抜き取り等も行いましょう。

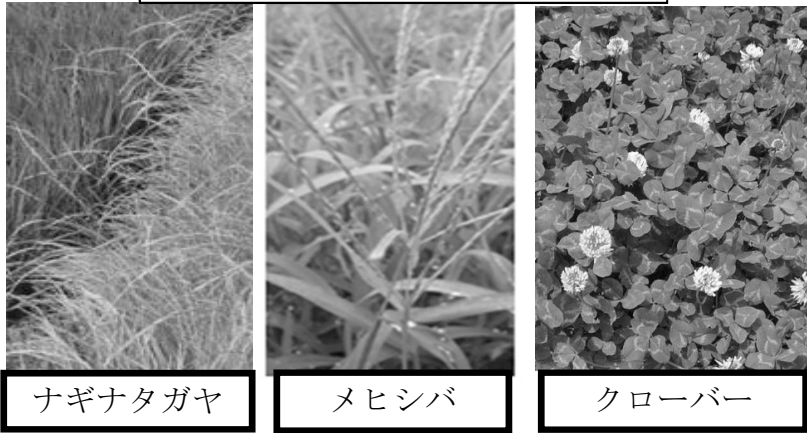
＜草刈りのポイント＞

- 畦畔や雑草地でのカメムシの増殖を抑えるため、イネ科雑草の穂が出る前に草刈りを行いましょう。
- 圃場内に発生した雑草（ノビエ、ホタルイ等）も、カメムシの餌になるので、雑草の発生状況に応じて適切な除草対策を行いましょう。

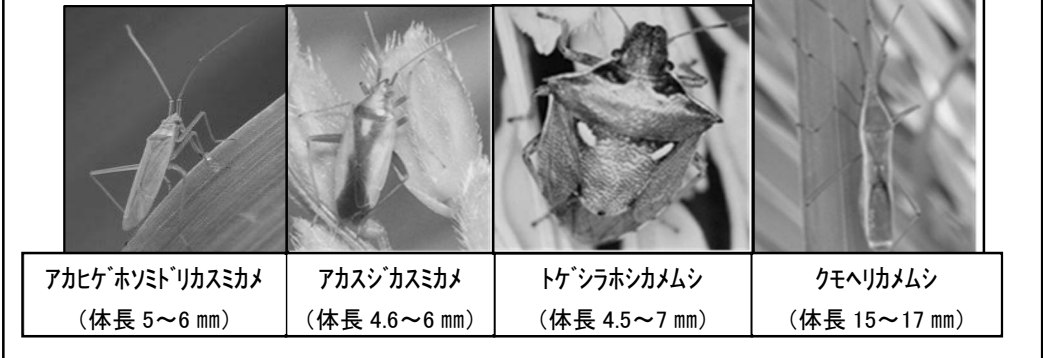
＜草刈り時の留意点＞

- 刈った草は、河川や海岸の環境保全の面から、用排水路には流さないようにしましょう。
- 草刈り機でケガをしないよう防護装備を着用し、近くを通過する人や車に小石等が飛散しないよう、周囲の状況を確認して行いましょう。

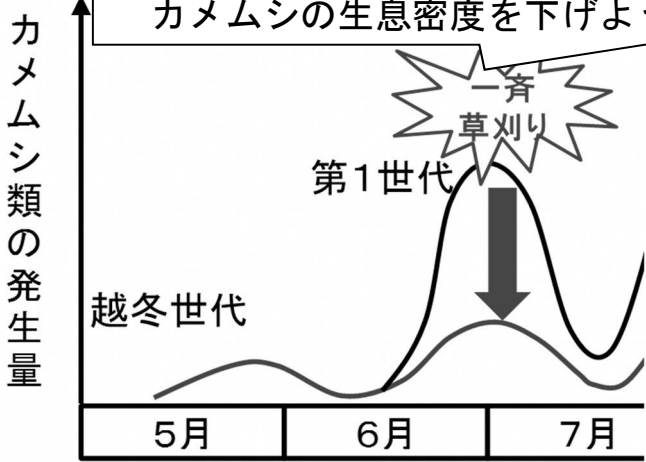
カメムシが好む草種



斑点米の原因となる主なカメムシ



一斉草刈りの実施で
カメムシの生息密度を下げよう!!



6 大麦あと圃場の適正管理

- 大麦あと圃場を放置するとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、カメムシの発生源になります。
- 緑肥作物等の作付けによりカメムシの繁殖を抑え、斑点米の発生を防止しましょう。
- 何も作付けしない場合は、除草剤を散布するなど雑草等が繁茂しないように管理しましょう。

【緑肥作物の作付け】

作物名	クロタラリア
播種時期	6月上旬～8月上旬
播種量	5～6kg/10a
すき込み時期	播種後50～70日後



熱中症対策をして作業を行いましょう！

＜熱中症予防のための5つのポイント＞

- ①気温の高い時間帯を外して作業しましょう
- ②こまめに休憩、水分・塩分補給をしましょう
- ③熱中症予防グッズを活用しましょう
- ④単独行動は避け、連絡を取り合いましょう
- ⑤熱中症警戒アラートを活用しましょう（環境省・気象庁HP、富山防災WEBで確認できます）

令和7年6月1日から熱中症の重篤化を防止するための「早期発見の体制整備」「発生時の措置手順の作成」「関係者への周知」が事業者には義務付けられ、必要事項記載の「張り紙」の掲示等が必要となります。



令和7年度富山県農薬危害防止運動の実施
～ 守ろう 農薬ラベル 確かめよう 周囲の状況 ～

営農情報第5号の発行日は
7月11日頃です